

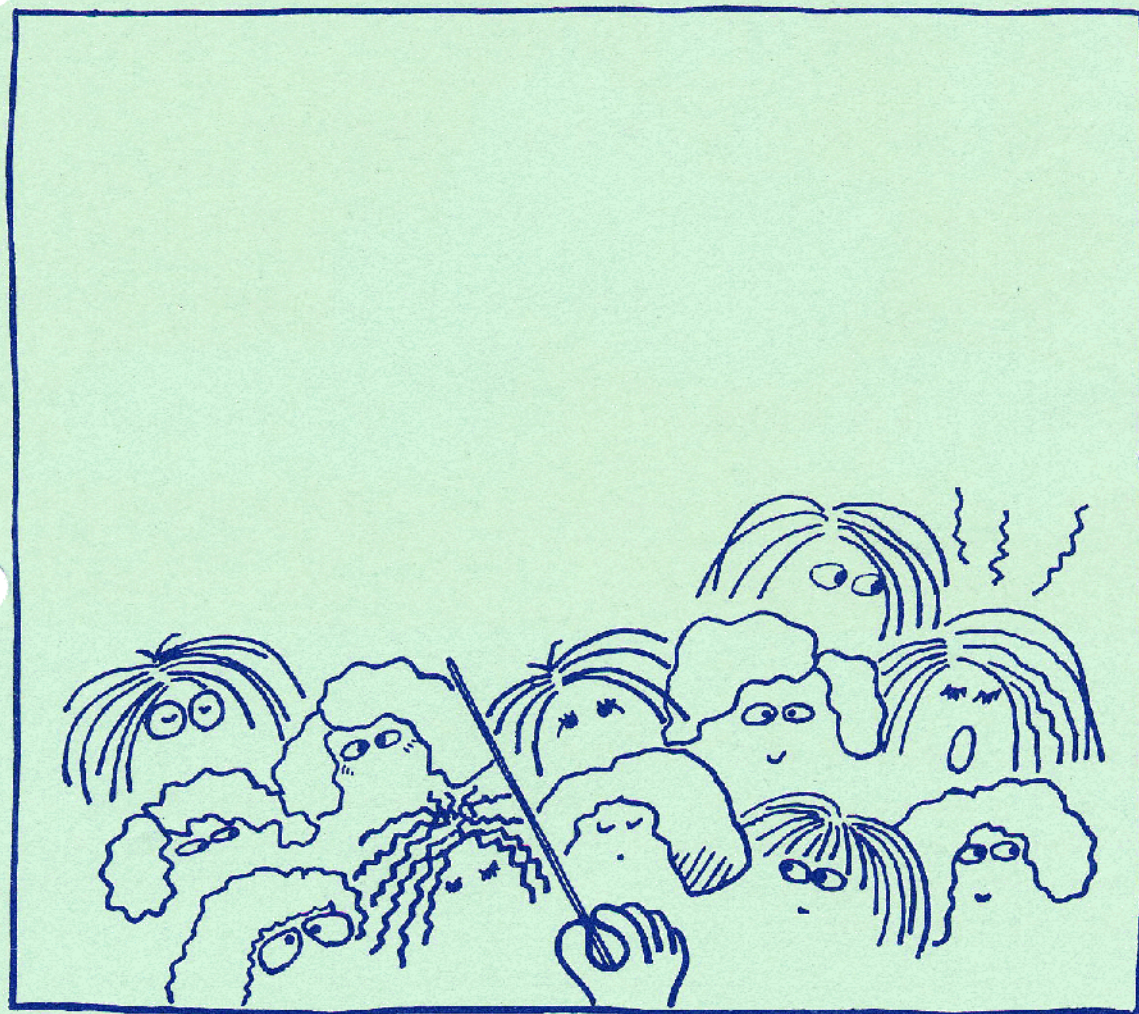
# 鎌倉交響楽団

## 1988

### ニューイヤーコンサート

指揮：古谷 誠一

司会：永井 邦子



1月24日(日) 2:00PM

鎌倉市中央公民館分館

後援：鎌倉市



## プ ロ グ ラ ム

### 〈第1部〉 北欧から

交響詩「フィンランディア」 シベリウス

組曲「ペール・ギュント」より グリーグ

### 〈休 憩〉

### ☆インスタントコンダクターのコーナー

### 〈第2部〉 アメリカから

ブルー・タンゴ アンダーソン

ジャズ・ピチカート アンダーソン

トランペット吹きの日 アンダーソン

ラプソディー・イン・ブルー ガーシュウィン

ピアノ独奏：野口 公 子 グローフェ編

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

#### ●ソリストの御紹介 野口 公 子 (ピアノ)

鎌倉育ち，東京芸大卒，同大学院修了。米ミシガン大およびノースウェスタン大マスターコース卒。山岡寿美子，内藤ゆり子，永井進，園田高弘，ギュイ・モンバート，ベニング・デキスターの諸氏に師事。昭和54年にはロサンジェルスで開かれたアメリカ現代ピアノ音楽祭でアイヴス，バーバー他を演奏。現在武蔵野音大講師。

次回演奏会 ●5月14日(土) 6:30PM 鎌倉市中央公民館分館  
●モーツァルト ピアノ協奏曲第24番  
●マ ー ラ ー 交響曲第1番「巨人」

## 曲 目 御 案 内

皆様，明けましておめでとうございます。鎌響ニューイヤーコンサートによるこそお越し下さいました。新春にふさわしい楽しい曲を御披露したいと思います。

### 〈第1部〉 北欧から

幕開きは「フィンランディア」です。この曲は1899年に作曲され，フィンランドを謳いあげた力強い曲です。当時ロシアの治下にあったフィンランドで，この曲は全国民の愛国心を高揚させたと言われていいます。曲は重々しい序奏に始まり，力強い樂想を経て，合唱曲にも編曲されている美しい旋律が現れ，最後に全管弦樂の激しいクライマックスで終わります。

続いては「ペール・ギュント」組曲をお聞き下さい。この曲は作曲者グリーグと同じくノルウェーの詩人，劇作家のイプセンの幻想的な詩劇のために作曲された劇音楽です。

イプセンの詩劇「ペール・ギュント」は民話を基にして書かれたものです。この詩劇を簡単に紹介しましょう。放浪癖のあるペール・ギュントが故郷と許婚を捨て，アフリカや中国，アメリカに空想的な冒険旅行をし，大金持ちになって故郷に帰ろうとしますが，途中で嵐にあって難破し，無一文となってしまいます。ペールは年をとって，ようやく故郷にたどり着きますが，そこで長年彼を待ち続けた許婚のソルヴェーグの愛により救われ，永遠の眠りにつくというお話です。

グリーグはこの詩劇のために23曲の付随音楽を作曲しました。その後，この中から8曲を選び，管弦樂の編成も手を加えて大きくしたのが「ペール・ギュント」組曲です。

この組曲には4曲ずつから成る第1組曲と第2組曲がありますが，本日はこの中から6曲を選んで演奏します。

### 〈第2部〉 アメリカから

第2部は，おなじみの**インスタントコンダクター**のコーナーから始めます。休憩の時に**コンダクター**を募りますから，あなたも，オーケストラの指揮をしてみませんか。

続いては，北欧から大西洋を越えてアメリカに渡り，今世紀にアメリカで作曲された音楽をお楽しみ下さい。

まず，アンダーソン作曲の「ブルー・タンゴ」「ジャズ・ピチカート」「トランペット吹きの日」を演奏します。アンダーソンはアメリカのポップス・コンサートのスタンダードナンバーを次々に作曲した人です。皆様もきっとどこかで，彼の作品をお耳にしたことがあると思います。

最後に，ガーシュウィンの「ラプソディー・イン・ブルー」を**野口公子**さんのピアノ独奏でお楽しみ下さい。ガーシュウィンは，1923年，当時，最も人気の高かったジャズ王ポール・ホワイトマンから作曲を依頼され，この曲を作りました。しかし，ガーシュウィンはオーケストレーションが不得手だったので，オーケストラ編曲には，「グランド・キャニオン」の作曲者として有名なグローフェの助けをかりています。この作品はジャズの手法とピアノの技巧が融合した名曲で，それまで全く別のジャンルと考えられていたジャズとクラシックの垣根を完全に取り除いてしまいました。





# 街からはじまる、地球のハーモニー。

小さなハーモニー。ひとつひとつが集まって、いつしか大合唱の和となります。

まず、この街の心のつながりを大切に…。みなさまと手をたずさえて

トヨタは、一步一步、素晴らしい未来をめざしてゆきたいと願っています。

あなたの街とともに歩む  
**TOYOTA**